（一）第783号　【昭和27年9月25日】【第三種郵便物認可】　THE MIIKE　（毎月1日、16日発行）昭和40年8月16日（月）

# 夏季闘争の総括を次の闘いへ

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
8100
編集発行兼人　澁田紀生

## 主張

わたくしたちは、生命を守るための転場抵抗強化の反合理化斗争を基調として、港沖竪坑移行問題・遺族、被災者を守る斗い・期末手当斗争の三本の柱を中心として「夏季斗争」を組織し斗いを進めた。これは、客観的諸条件等を考慮に入れて、現時点に於ける最大の反撃に突入したのである。もちろんこの夏季斗争の成果を総括して「秋季斗争」へと更に前進させなければいけない。

### 徹底した総括を！

わたくしたちは、夏季斗争を全力をあげて斗い抜いたが、まだまだ不十分であったことを自己反省しなければならないし、良かった点はこれを次の斗いへ継承するというかまえで全組合員が話し合いを深めねばなりません。具体的には、全体としての志気がどれだけ発揚されたか、その結果会社側・第二組合員に対して如何に影響を与えたか等を徹底して検証する必要がある。

さらに不十分な点は、率直に指摘してその原因を探究しなければならない。

### 個々の斗いに対する評価

期末手当斗争について、第二組合の同額要求・先行妥結阻止・実質的な一括支払い獲得の成果は炭労統一斗争のなかに如何に前進し欠陥があったかを明らかにする必要がある。また遺族、被災者の斗いが政治的にも重視された評価や港沖竪坑移行合理化をめぐる三井資本の収奪の本質をバクロしたこ

とである。

最終的には八月六日、二四ストを決行し、暴風雨にも負けず全員動員でビラ配布活動した斗いの意欲についての評価を十分行なわなければならない。

### 秋季斗争の発展のために

九月から一〇月の初旬にかけて炭労・両県評・大地評の定期大会が行なわれる。これらの諸大会はいずれも、わたくしたちの上部組織であり、この大会の決定は今後の斗いに重大な影響があり、全組合員が討議に参加するような活動を取り組む必要がある。

以上の諸大会で決定される諸斗争の推進をはじめ、わたくしたちは夏季斗争で提唱した生命を守るための保安斗争を、あくまで基調としなければならない。それとともに地域住民との共斗組織として反戦平和の斗いを「ベトナム戦争反対」署名活動として大々的に展開しなければならない。これは小学校区単位の「実行委員会」の組織つくりから始める必要がある。

さらに、総評の秋季斗争の柱の一つなかに遺族、被災者を守る斗いを組み入れて、きたる臨時国会の審議をめぐる斗いを重視する必要がある。そして集約として、一一月九日の「三周忌」の大集会へと発展させなければならない。

われわれは、その斗いのもりあげを期末手当斗争へと前進させ、新労幹部諸君の低額要求・先行妥結にみる裏切行為などを封じこめ得るまで鋭い斗いを組みあげる必要がある。

長期の展望にたって、十分な夏季斗争総括を成功させよう。

---

座談会

# たたかいをふりかえって

## ―夏季斗争で何を学んだか―

出席者
宮浦　事務手　高野　玄太
〃　内電　古賀　力
〃　内機　墨田　昭義
三川　事務手　大阪間貞信
本所　事務手　藤本　義治
〃　事務手　広瀬　勝鮮
港務　保線　野田　一則
司会　編集部

### 斗いをどう理解していたか

【司会】本日はどうもごくろうさまでした。今日は、秋斗を迎えるに当って、夏季斗争の総括を現場で直接動いたみなさんに話し合ってほしいと思います。まず夏季斗争におけるわが方内部のとり組みはどうだったでしょう。

【墨田】夏季斗争という形で斗ったのは今年がはじめてです。それで、夏季斗争の中で主体的な力をどう高めるか、あるいはそれをどう第二組合員に拡げてゆくかということを、転場分会として、具体的によく論議しないままに、ストレートに転場集会をもり、五人組会議でとりくみとくに第二組合対策については五人組にもそれぞれアンバランスがある。私たち委員自体、とらえ方が不十分だったこの後は夏季斗争の検証総括を行なうが、これから本当の斗いだと思います。

【広瀬】たしかにその点はある夏季斗争は何かというと、いまですすめてきた反合理化斗争の中心に保安斗争があり、それにその時に出てくる期末手当、港沖竪坑移行、あるいは遺族被災者の斗いで支えられてゆくものです。その位置づけがはっきりとらえられていない活動家自体の弱さがあったそれで第二組合員に署名カンパを訴えるときにも期末手当ばかり訴えていった。本当は転場における会社の合理化攻撃のきびしさとわれわれの斗いの正しさを判ってもらい、その上で期末手当も、お互にやろうじゃないかと訴えるべきでないかと思う。そういう意味でとり組みが十分でなかった。

【藤本】うちの病院分会では、夏季斗争にハッスルする条件はあった。というのは新しく病棟が出来て、人員の充足をめぐっての斗いを、これからやるぞという意志統一ができた。それは分会全体のものにならなかった弱さもあったが、成果はあがった。

【古賀】日常活動がどうだったかということが成果に表われていると思う。つけやき刃式に署名、カンパばかりやってもできない。それにわれわれの思想性を高めることも必要だが、それとともに、ともかく第二組合員のところに行ってみると、何か話さんならん。そこで、話せないと勉強せんならんということになる。行動を起すと何かやはり学ぶことになる。

## 闘うビラ活動に

【司会】第二組合員向けのビラを出しましたが、そのビラはどういう風に活用されましたか。

【野田】第二組合向けのビラだったために、ビラのことで内容を向うからきかれて、見とらんだったから判らんだったということが出された。

【司会】斗いの中のマスコミに利用することが、意識的にとらえられなかったのですね。

【みんな】たしかにその点はあった。

【高野】うちではビラをくばるまえに読んでから渡すように、こういうことが書いてあると意識的に話した。

【司会】ビラ活動して、第二組合員はどう変化しましたか。

【大阪間】前はビラをもらったら捨てていたが、ちかごろはみんな机のなかになおしている。

【高野】春斗からたしかに変った。みんなもらって、ほとんどが読みながら帰っている。八月六日のビラ入れのとき、宮浦では会社

の様子であった。

【司会】ビラくばりを会社と第二組合幹部は阻止していたが、わが方の反応はどうだったですか。

【古賀】組合員自身、説得活動をどの程度までやるのかという懸念があった。その面に対する意志統一が不十分だったため、ビラをくばるというだけになっていた。

【大阪間】三万九千円で妥結しても、もらった額はうちでは最高の人で三万二千円だったから、妥結額については第二組合員も不満が大きい。

【司会】炭労の統一斗争に対する批判はどうでしょう。

【古賀】今度の場合、三社先行斗争になり、春斗から発展していない。私たちは春斗の結果からみて統一斗争が組めるかどうかは、大きな関心があった。

【大阪間】三池はよかばってん炭労がいかん。とよくいわれるが炭労のカベがどこに問題があるのか、それが自分たちの活動と結びついていないですね。

## 期手斗争はどう前進したのか

【司会】期末手当について先行妥結させなかったことや、その他意見は出ていなかったでしょうか

【古賀】もし先行妥結した場合どれだけ炭労がハマってやれるかどうかという危惧がみんなのなかにあった。第二組合が五万円の同額要求をし先行妥結しなかったのは、こちらの主体的条件もさることながら、第二組合員自身、矛盾が拡大することをおそれたのではないか。

【司会】斗えばよくなるという思想を植えつけないためにも、第二組合育成のためにも、資本自身の要求として出されるスト権弾圧

という攻撃の一発回答は、みんなに浸透していたでしょうか。

【古賀】一発回答による向うの攻撃の奥深さというか、その問題について論議になっていない。こんご論議を深めるべきだ。

【大阪間】いまのところ一発回答というより、額が高いか低いかに注目している。

【広瀬】一発回答について、三池では対第二組合、対全炭鉱のなかで考えねばならない。

【司会】期末手当に対する不満はどうだったでしょう。

【古賀】炭鉱は低いという既定観念がある。まとまった金が入ってよかったとみるのは、事前に会社のマス・コミが「分割払いだ、低額だ」というのが入っているからだ。

【大阪間】三万九千円で妥結しても、もらった額はうちでは最高の人で三万二千円だったから、妥結額については第二組合員も不満が大きい。

【司会】炭労の統一斗争に対する批判はどうでしょう。

【古賀】今度の場合、三社先行斗争になり、春斗から発展していない。私たちは春斗の結果からみて統一斗争が組めるかどうかは、大きな関心があった。

【大阪間】三池はよかばってん炭労がいかん。とよくいわれるが炭労のカベがどこに問題があるのか、それが自分たちの活動と結びついていないですね。

## つぎへの斗いへ

### 点検活動を転場で深めよう

【司会】今までの論議は、第一に五人組としての討議不足が出された。次に組合員の中に炭労の統一斗争に対する問題意識がある。三点目には先行妥結、敵の分析、われわれ内部の情勢などを歴史的にみるということが出されました秋季斗争の反戦平和、港沖竪坑の具体的な斗いを通じて、一二月段階の期末手当斗争を迎えるに当って、夏季斗争の総括論議をやったのですが、今後の内部に対する註文や意見などを出して下さい。

【大阪間】夏季斗争を反省して秋斗ではもう一度論議をやることから出発したい。

【古賀】秋斗でも、第二組合対策は、期末手当が中心になると思うが、その中でどれだけ日常斗争を第二組合の中に入れていくかが問題です。その討議を五人組でやれるようにしたい。

【広瀬】長期抵抗路線の中における第二組合対策の位置づけをはっきりし、徹底して論議すべきと思う。そのためにはもっと組合議

【藤本】夏季斗争の成果の上に立って、主体的条件をどう高めるかが、私たちの任務です。

【野田】第二組合対策のとり組みが方に不十分さがあったので、その辺をもっと充実させたい。

【司会】斗ってうまくいかんことはある。しかし動いた以上成果はある。それを歴史的にみないと積極的な面はとらえられない。今後転場でこういうようにうまくいかなかった点も話し合ってほしい総括というと委員会で論議し、それをそのままおろしては栄養にならない。今後の斗いに生かすには分会で、われわれはどうたたかったかの夏季斗争の総括が行なわれないと、たたかいの成果を意識することができないし、次へのたたかいへの自信は転場のなかに生まれてこないと思います。ぜひ転場で話し合ってほしいと思います。本日はどうもありがとうございました。【写真は、八月六日、四山鉱で一番方へのビラ入れ】